

I. ラインジャッジ編

1. 基本姿勢とフラッグシグナル

(1) ボールデッド時の基本姿勢

①コーナーから約2 m離れた位置に立つ。

フラッグは自然に体側に沿わせる。(写真①・②)

②基本姿勢として、ラリー終了時は、いったん、写真①の姿勢になり、サービス開始前に写真②の準備姿勢になる。



写真①



写真②

③フラッグは、ポールに人差し指を添えて持つ。(写真③)

④フラッグシグナルは、見栄えよく示すように心がける。

⑤左側からのサービスの時は、サーバーの邪魔にならないように、サイドラインの延長線上で、サーバーの後方に移動する。移動はするが、サーバーのフットフォールトを見るので、横にはずれない。サービス後は、すぐに所定の位置に戻る。

ただし、壁まで下がり、なおサーバーの邪魔になるようであれば、1歩左にずれる。

⑥ラリーに入る時、フラッグは音をたてずに、持ち手側の脚の後ろに回す。(写真④)



写真③

(2) ラリー時の基本姿勢 (写真④・⑤)

①担当するラインの延長線上に、身体の内側がくるように位置取りをする。左足が前になるように、両足は開き、両膝を曲げ、レシーブするような低い姿勢でボールに集中する。

②フラッグは、前から見えないように、持ち手側の脚の後ろに回す。フラッグを持たないほうの手は、ひざの上には置かない。

③ボールが担当するライン方向に来たら、ボールより先にライン上に目を移し、ボールと床の接点を見て判定する。

④ラリー中は、自分の担当ライン方向にボールが来る可能性がある場合は、写真⑤のように低い姿勢をとる。そうでない場合は、写真④のようにやや高い姿勢をとるようにして、必要に応じて、この2つの基本姿勢を使い分けながら、判定に備える。



写真④



写真⑤

(3) ボールイン (写真⑥)

①まず、構えた姿勢で判定を行い、すばやくフラッグシグナルを示しながら姿勢を正す。

シグナルは、ひじを伸ばしてフラッグでラインを指す。

体と腕(フラッグ)の角度は、45度を保つ。

②視線をファーストレフェリーに向けて、アイコンタクトをとる。

③ファーストレフェリーがアウト、イン、ボールコンタクトなど反則の種類(以下、反則の種類)のシグナルを示し始める時に、姿勢を戻す。(写真①)